

(5) 蕨岡小学校

学 校 長
校内研代表者

清家利華子
山崎 充子

1. 研究主題 「自分の思いを表現できる児童の育成」 －国語科の複式授業研究－

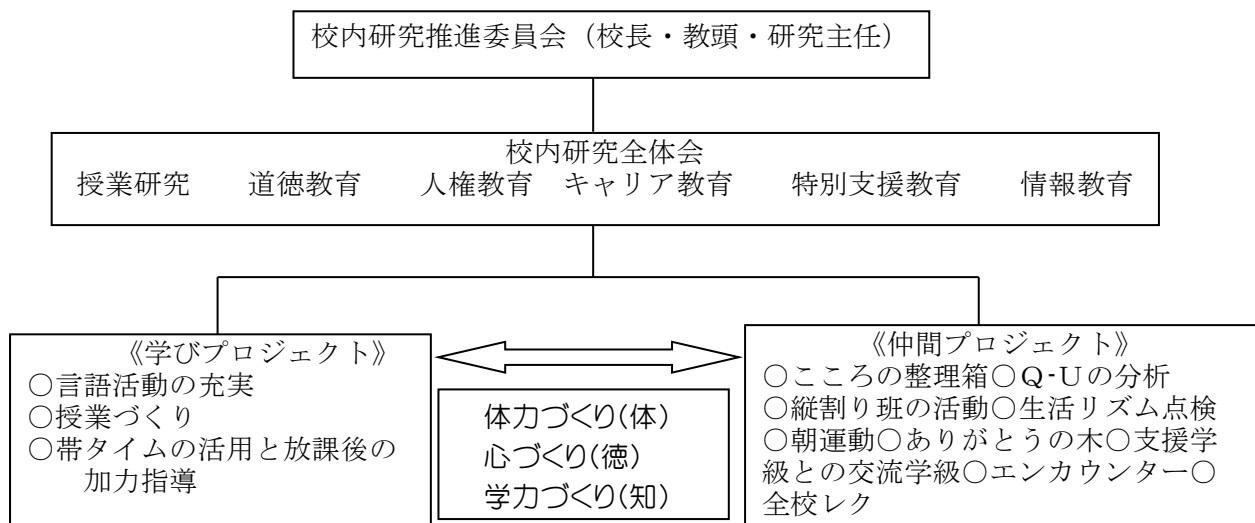
2. 主題設定の理由

本校は令和 3 年度、「高知の未来をつくる推進プロジェクト授業づくり講座」の指定を受け、算数科複式授業において単元デザインと授業づくりについて研究してきた。令和 4 年度、5 年度も研究内容を引き継ぎ、授業力向上に努めてきた。また、主体的・対話的で深い学びにつながるための素地として、学びプロジェクト（発表朝会、全校集会、読書活動の充実、新聞への投稿など）や仲間プロジェクト（Q-U、こころの整理箱、エンカウンター、全校遊び、縦割り班活動など）も継続してきた。

これらの取り組みの結果、各種学力調査の結果は全国平均を大きく上回り成果がみられた。特に、高知県学力定着状況調の結果は全国平均+19.4P であり、目標を大きく上回ることができている。このことから、算数科においては一定の学力が定着したとみることができる。しかし、一方で CRT テストの国語科においては、-14.1P と全国平均より大きく下回っている。特に「書くこと」において弱さが見られ、新たな課題となっている。

このような実態から、今年度は国語科を中心とした授業研究に取り組む。「自分の思いを表現できる児童の育成～国語科の複式授業研究～」という研究テーマを設定し、同単元（同領域）異教材での学習指導の方法を研究していく。2つの学年に共通する目標を設定し、学習活動には共通する部分を計画する。また、発表や話し合いの機会を多く設定し、自分の考えを相手に伝える活動を取り入れた授業を仕組む。複式で学び合える授業構成、指導方法の工夫改善に努めることは、学年に応じた確かな学力の定着や表現力の向上につながると思う。さらに、基礎学力の定着を図るために個に応じた対応も設定していき、ICT を効果的に活用した授業にも引き続き挑戦していく。そして、コミュニケーションや集団での関わりを大切にしていくために、道徳や人権、キャリアなどの視点からも取り組んでいきたい。そのような取組から自分の意見を言える力が身につく、他の意見を聞きそれを基に自分の考えを確かにしていく児童の姿をめざしたい。

3. 研究の進め方と方法



4. 具体的な取り組み

【授業での共通認識】

- ・本時の目標が達成できている授業
- ・児童が関わり合うことにより思考が深まる授業
- ・1時間の中に「話し合う活動」「書く活動」がある授業
- ・問いから振り返りまでが1時間完結になっている授業

【めざす授業の共有化】

- ・全学級研究授業を行う。教科は国語を主とする。
- ・校内研究全体会で指導案検討を行う。
- ・研究授業および事後研究に指導主事を招聘する。
- ・授業参観の視点を設定しておき、それを基に協議を行う。

(1) 授業を支えるための取り組み ―学びプロジェクト―

①ことばあそびと国語辞典の活用

年間3回の中で、言語能力を向上させるためのことばあそび（辞書引き）は、語彙を豊富にしていく取組みにつなげていく。国語辞典は全員に持たせ、取組む。振り返りを行う。

②国語タイム

条件付き作文を書く。（火曜日：ミニ作文 水曜日：要約作文）

③掲示板の活用

国語タイムで児童が書いた作文の掲示をする。

高知新聞「読もっか」に取組む時間を設定し、作文、俳句、カットを投稿する。

掲載された作品は「読もっかコーナー」に掲示し、年度末には児童へプレゼントする。

④必読図書の読破（図書委員会の取組）

20冊の必読図書を読破できるようにする。

教科書に紹介されている並行読書から選ぶ。

※年間読書目標冊数の設定

5・6年（60冊） 3・4年（80冊） 1・2年（100冊）

(2) 授業を支えるための取り組み ―仲間づくりプロジェクト―

①体力・運動能力の向上

- ・朝マラソン（毎日）※7月・9月は熱中症予防のため実施なし
- ・朝運動（一輪車、なわとび等）

②こころの居場所となる温かな学校づくり

- ・縦割り班の活動
- ・全校レク
- ・班長による読み聞かせ（第3木曜日）
- ・なわとび大会（2月の合同体育）
※12月から学級で練習開始
- ・SCによるエンカウンター（6月、10月、2月）（予定）
- ・心の整理箱（4月、9月、2月）
- ・学校生活アンケートの分析（6月、12月）
- ・QU（6月、11月）
- ・ミニQU（5月、10月、1月）

③基本的生活習慣の構築

- ・生活リズム点検（2か月に1回）
- ・分析と課題の共有
- ・栄養教諭による指導（年間3回）

④保小連携

- ・保育所へ読み聞かせ（学期1回※3・4年と5・6年）
- ・合同生活調べ（6月、10月、2月の生活リズムの日程を合わせて実施）
- ・保小連絡会（6月、12月、3月の年3回）

5. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・予習型家庭学習を行ったことで児童が積極的に学習に取り組めた。また、予習をしていくことによって「とも学び」の時間を多く確保することができ、目指す児童の姿である「友だちの意見と絡めながら自分の意見を臆さず言える子」の、「友だちの意見と絡めながら」の部分に近づくことができた。
- ・授業研究後の協議で確認したことをその後の授業に生かすことができた。次の単元や他教科でも取組を継続させることができた。
- ・同単元（同領域）異教材で行う複式の単元計画をつくることができた。児童も授業者も見通しを持って授業に望むことができた。
- ・国語タイム（帯タイム）での、新聞紹介、本の紹介、ミニ作文の取組で書く力が伸びた。また、新聞紹介については、10月からクラウドを使って記事紹介を行い、コメントを書くことによって意見や感想の交流ができた。
- ・必読図書、巡回文庫の本の記録を可視化したことで読書量が増えた。
- ・朝運動が計画的にできた。
- ・学校生活アンケートで児童の気持ちを引き出すことができた。

〈課題〉

- ・目指す児童の姿「自分の意見を臆さず言える子」に至っていない。ただ、全校児童は「自分の意見を進んで言える」と回答している。教師が目指す姿とのギャップを埋めるための取組みを考える必要がある。
- ・継続した取組を行い、改善点を全員で考え、議論し、他校の取組からの学びも取り入れていくこと。
- ・生活リズム点検は目標をもって頑張ることができているが、メディアの項目に改善が見られない。児童自身にメディアとの付き合い方を考えさせるとともに、家庭生活にどう切り込んで行くかが課題。
- ・朝運動を含む教育活動校時表を見直し、限りある時間の中で効果的に成果をあげるために朝運動の時間設定をどこでするかを考えていく。